



平成 24 年 3 月期第 4 四半期 マイルストーン開示
(当社事業計画の進捗状況等について)

平成 24 年 5 月 14 日

上場会社名 株式会社ユビキタス
(URL <http://www.ubiquitous.co.jp/>)

(コード番号 : 3858)

問合せ先 代表取締役社長 三原寛司
経理財務部長 榎木玲子

TEL : (03) 5908 — 3451

平成 23 年 5 月 13 日発表、平成 24 年 2 月 7 日修正のマイルストーン開示に係る事業計画の年度末時点における進捗状況について、以下のとおりお知らせします。

1. 年度末時点における今期事業計画の達成状況

[今期事業計画の達成状況]

・通期業績予想と実績の比較表 (百万円)

区 分	通期業績予想	実 績	達成率 (%)
売 上 高	920	915	99.5
営 業 利 益	43	63	146.6
経 常 利 益	45	64	143.7
当 期 純 利 益	10	△18	—

・形態別売上高の予想と実績 (百万円)

区 分	通期業績予想	実 績	達成率 (%)
使 用 許 諾	595	569	95.7
サ ポ ー ト	55	58	105.6
受 託 開 発	270	287	106.5
合 計	920	915	99.5

・分野別売上高の予想と実績 (百万円)

区 分	通期業績予想	実 績	達成率 (%)
ゲ ー ム 分 野	289	256	88.9
ネ ッ ト ワ ー ク 分 野	405	407	100.7
デ ー タ ベ ー ス 関 連	150	169	113.0
高 速 起 動 関 連	76	81	106.8
合 計	920	915	99.5

[今期事業計画の達成状況に関する定性的情報等]

(1) 総括

平成 24 年 3 月期につきましては、ソフトウェア使用許諾売上高が予想よりも低調に推移したため、平成 24 年 2 月 7 日に通期業績予想の修正を行いました。これを受けて、平成 24 年 2 月 7 日「平成 24 年 3 月期～平成 25 年 3 月期 マイルストーン開示に係る事業計画の修正について」において、平成 24 年 3 月期の事業計画を修正しました。

さらに、外注費等の経費の圧縮により営業利益、経常利益がそれぞれ 2 月の予想を上回る見込みとなり、一方、当期純利益は繰延税金資産の取り崩しを受け 2 月の予想を下回る見込みとなりましたので、5 月 11 日に通期業績予想を修正しております。

なお、繰延税金資産の取り崩しについては、平成 22 年 3 月期までに評価損を計上し繰延税金資産に計上していた投資有価証券の売却が期中に発生したこと、当期業績、及び繰延税金資産の回収可能性等を効果会計に係る会計基準に従い慎重に検討し、当期末において同資産の一部 85 百万円を取り崩しました。

以上により、マイルストーン開示に係る事業計画修正後の通期業績予想に対する達成率は売上高 99.5%、営業利益 146.6%、経常利益 143.7%、当期純利益につきましては 10 百万円の予想が当期純損失 18 百万円となりました。

(2) 年度末時点における研究開発及び事業開発の進捗状況について

1. ネットワーク分野における Web サービス関連の研究開発及び事業開発

① 研究開発目標

当社が強みとして持つ端末側の組込みソフトウェアの提供に加え、サーバー側のウェブサービスの開発の検討を進めております。具体的には、端末側で集めたデータをサーバー側で収集し、ユーザーに分かりやすく表示することが容易に可能となるような、サービスプラットフォーム構築を検討しております。

② 技術の現状

平成 23 年 4 月、電力使用量を計測し、無線 LAN 経由でサーバーにデータを蓄積、表示を行う節電の見える化ソリューション「iRemoTap (アイリモタップ)」の試作開発したことを発表し、5 月に開催された ESEC2011 組込みシステム開発技術展においてデモ展示を行いました。

実証実験や商品化開発などを経て、販売に向けた最終段階にあります。また、サービスプラットフォームに関しての研究開発も継続して行っております。

③ 事業開発の現状

節電の見える化ソリューション「iRemoTap」は、今後の 10 年に向けた弊社の新ビジョンである、“「価値を結ぶ」サービスプラットフォームの提供”を具現化する第一弾のパイロットプロジェクトと位置付けております。6 月には、この分野の事業進捗、業務拡大に向けて、電力見える化サービス分野で特にユーザーインターフェースに強みを持つ株式会社 Sassor との業務提携を発表しました。また、平成 24 年 1 月に米国で開催された「2012 International CES」パワーテック社ブースにてデモ展示を行い、さらに 2 月には、サンワサプライ株式会社

との販売における協業について発表しました。現在、当ソリューションのグローバル展開の可能性を検討しつつ、平成24年中に予定されている日本国内でのサービス開始に向けた改良を重ねています。Internet of Things (モノのインターネット) のグローバルリーダーを目指して、新市場を切り開き、イノベーションへの挑戦を続けます。

2. AV 機器のネットワーク対応に関する研究開発及び事業開発

① 研究開発目標及び事業開発目標

デジタル家電機器のネットワーク対応について研究開発と事業開発を続けてきましたが、テレビやレコーダー機器向けの基本的な研究開発については完了し、引き続き次年度モデルでの継続採用に向けた性能改善を行い、他社展開を進めています。

また、スマートフォンやタブレット型端末などでのネットワーク対応の需要も広がって来ているところから、この方面への展開も進め売上高増大を目指します。

② 技術の現状

当社は、DLNA (注1) 規格に準拠したネットワーク・ソリューションの開発を完了しており、「Ubiquitous Network Framework」は国内大手電機メーカーのレコーダーへ継続して搭載され、コンテンツ保護ソリューション「Ubiquitous DTCP-IP」(注2) は、国内大手電機メーカーのテレビに継続して採用されております。

3. ワイヤレス・ネットワークに関する研究開発及び事業開発

① 研究開発目標及び事業開発目標

「Ubiquitous Network Framework AIR NOE Solution」の技術改良・強化を継続して進め、量産製品への搭載を目指すとともに、近年無線 LAN 対応が進んでいる各種機器へ無線 LAN 関連の製品を提供することにより事業の拡大を目指します。

② 技術の現状

当社は平成 18 年 3 月期より本分野の研究を開始し、平成 20 年 3 月期には AIR NOE を完成し、平成 23 年 11 月には新版の「AIR NOE Solution」をルネサスエレクトロニクス販売株式会社の最新無線 LAN モジュール向けに提供を開始しました。

また、平成 23 年 5 月にはワイヤレス・ネットワーク環境を簡単に構築可能とするための製品である、「Ubiquitous WPS」(注3) について、最新規格である「WPS2.0」に対応した評価版の提供を開始しました。国内電機メーカーのネットワークオーディオ製品や大手デジタルカメラメーカー等に採用されて 7 月より製品の出荷を開始しました。

さらに、11 月より Registrar 機能を追加した評価版の提供を開始しました。株式会社村田製作所との協業により、無線 LAN モジュール上で Wi-Fi ドライバと「Ubiquitous WPS」の Registrar 機能を組み合わせたソリューションとしても展開しております。

デジタルカメラとスマートフォンを連携させる「ネットワーク連携ソリューション」もデジタルカメラ向けに採用されるなど、無線ネットワーク関係は比較的好調に推移しました。引き続きワイヤレス・ネットワークに係る案件は多く、DLNA などのアプリケーションも含めた形で、ソリューションとしての提供をすべく技術開発を継続しております。

4. 組込データベースに関する研究開発及び事業開発

① 研究開発目標及び事業開発目標

平成21年8月にエンサーク株式会社から組込データベース製品 DeviceSQL の知的財産権を取得し、その後社内での開発体制を整えて機能改良を行ってきました。データベース製品としての基本機能を継続的に向上させるほか、アプリケーションにより踏み込んだソリューションの展開やクラウドサービスとの連携など、次世代の組込み機器に必要なデータ管理を実現する製品へと進化を続けていく計画です。

平成23年5月、3月末時点（弊社が販売を開始してから約2年半の期間）で、累計出荷ライセンス数が全世界で1,000万本を突破したことを発表しました。また、6月には法人を対象として SDK 評価版の無償提供を開始し、さまざまなデバイスに「Ubiquitous DeviceSQL」を搭載していただけるように拡販活動を継続した結果、OA機器や産業機器等の新たな分野で採用され、量産がスタートしております。

② 技術の現状

平成24年3月期中も継続して基本機能の改善に努め、検索機能の向上など細部にわたる機能向上を行いました。今期も継続して技術開発を進めます。

5. デバイス高速起動分野での研究開発及び事業開発

① 研究開発目標及び事業開発目標

「Ubiquitous QuickBoot」につきましては、既に基礎研究開発は終了しておりますが、対応するCPUやOSの拡充、ご採用頂く各メーカーの周辺デバイス・ドライバなどへの対応など、量産に向けた細部の開発作業を継続しております。

② 技術の現状

CPUをARM、OSをLinuxとしたソフトウェア開発キットを提供中で、量産予定数量は小規模であるものの製品での採用が決定して市場で供給され、今後の後継製品への採用も計画されております。

平成23年10月には、「スナップショットイメージの圧縮機能」や「差分アップデート機能」の追加を行った、新版の「Ubiquitous QuickBoot」の発売を開始しました。

さらに、平成24年2月にはマルチコアCPUに対応した最新版の提供を開始しました。また、エンジニアリングサービスでの協業体制も強化しております。

引き続き国内外より高い関心を頂き、中でもカーナビゲーションシステムなど車載向けの端末においては、完全に電源を切った状態からの高速起動が可能である点が高く評価され、数社との間で大・中規模案件の研究開発・商品化に向けた実装を継続中です。一般的に車載関連の製品は、他の製品群と比べても、市場投入まで相当程度の時間を要し、収益化の進捗には遅れが見えますが、今後のロイヤルティ収益の獲得が見込まれます。

なお、対象とする市場は形成されつつある新市場であり、その成長に予測困難性が伴います。当社は Ubiquitous QuickBoot の将来性に期待しておりますが、市場動向によりましては各社各案件対応により市場浸透が遅れる可能性や、Ubiquitous QuickBoot がユーザー体験改善または待機電力削減に資する製品として広く受け入れられない可能性があります。

(3) 計画達成のための前提条件について

1. 研究開発計画達成のための前提条件

当初の計画通り、エンジニア 27 名の体制から変更ありません。

2. 研究開発成果に対する評価・判断のポイント

平成 24 年 3 月期中に 5 件の新製品リリースを行う計画で、当第 1 四半期に 2 件、第 3 四半期に 3 件、及び第 4 四半期に 1 件、合計 6 件の新製品をリリースしました。

3. 研究開発計画達成に重要な影響のあるライセンス契約など

当期において新規のライセンス契約締結はありません。

(注 1) DLNA は、Digital Living Network Alliance の略称であり、パソコンやデジタル家電機器をネットワークでつなぐ際の約束事のことです。

(注 2) DTCP-IP は、IP ネットワーク上を流れるコンテンツ保護を実現する認証と暗号化の技術です。

(注 3) WPS は、Wi-Fi Protected Setup の略称であり、複雑な無線 LAN の設定を容易にするための技術規格です。

【参考資料】「平成 24 年 3 月期～平成 25 年 3 月期 マイルストーン開示に係る事業計画の修正について」は、平成 24 年 2 月 7 日開示の文書をご参照下さい。

以 上

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。